

【保護者アンケート】

1 目的

タブレット端末の活用における、保護者の意識調査をもとに、今後のタブレット端末の利活用等についての参考にする。

2 調査概要

【実施期間】 令和6年11月15日(金)～令和6年11月26日(火)

【回答数】 ※回答は家庭数であるため、割合算出はしていません。

アンケート対象	回答数	市内児童生徒数
保護者(家庭数)	6,289 人	12,427 人

3 考察と対応策

(1)考察

①保護者の意見の変化と現状

- ・「故障・破損・紛失」に対する肯定的意見 令和5年度46%⇒令和6年度56%
- ・「個人情報の取り扱い」に対する肯定的意見 令和5年度55%⇒令和6年度62%
- ・家庭におけるタブレット端末の扱いやルールに対する肯定的意見 約70～80%
- ・家庭におけるタブレット端末の扱いやルールに対する否定的意見 約15%

②保護者の懸念

保護者の懸念として、以下の点に不安を感じていることが考えられる。これらの意見は、タブレット端末導入当初より保護者の不安が高い項目となっている。

- ・視力への影響 否定的意見24%
- ・姿勢への影響 否定的意見28%
- ・端末の重さ 否定的意見53%

(2)対応策

①視力への影響に対する対策

【スクリーンタイムの管理】 学校や家庭で 1 回の使用時間を制限し、適切な休憩時間(例：30 分使用後に 10 分休憩)を設ける。

【目の体操の推奨】 20-20-20 ルール(20 分ごとに 20 フィート(約 6m)離れた場所を 20 秒見る)を取り入れる。

②姿勢への影響に対する対策

【正しい座り方の指導】 姿勢改善のため、机や椅子の高さを子供に合わせて調整する。

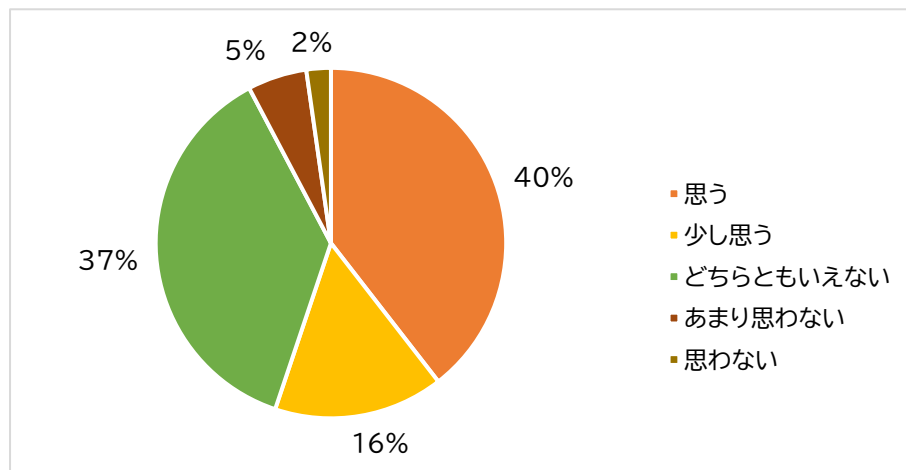
③端末の重さに対する対策

【端末の選定と重さ対策】 教科書の持ち帰り等について検討が必要。

4 設問に対する回答

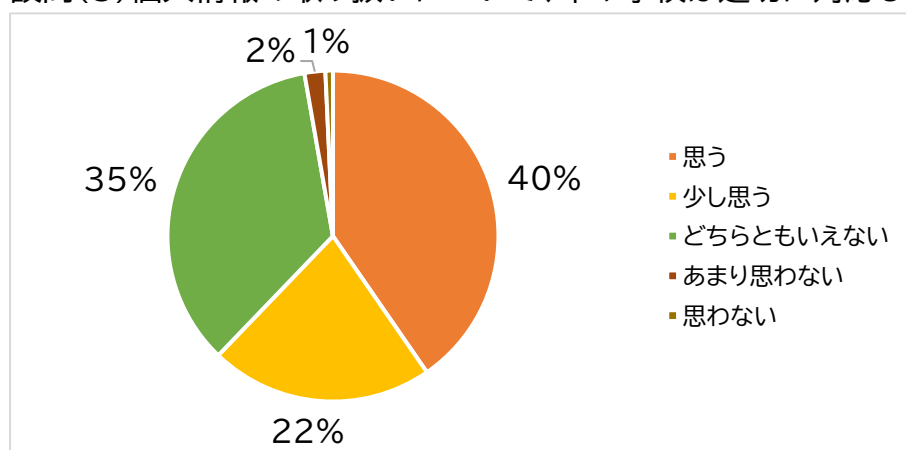
設問(1)お子様が在籍する学校を教えてください。

設問(2)故障・破損・紛失した際、市や学校は適切に対応していると思いますか。



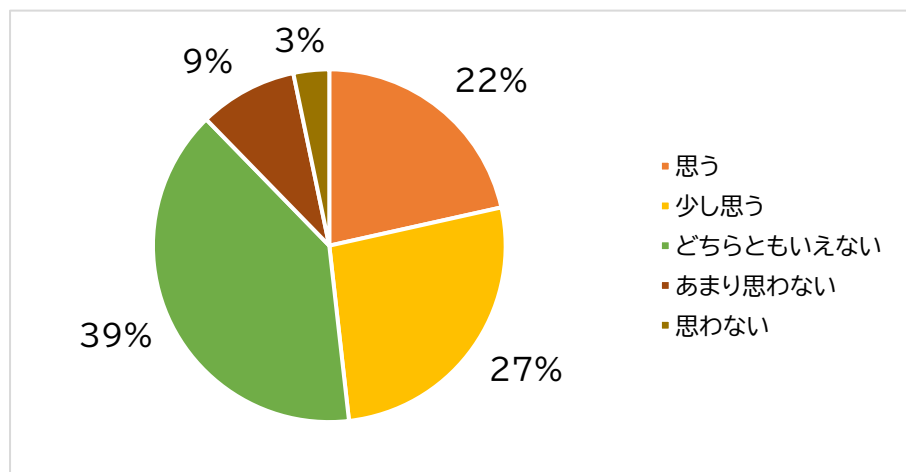
令和5年度は「思う」、「少し思う」の肯定群の割合が45%であった。令和6年度は56%と上昇している。「あまり思わない」「思わない」の否定群の割合も10%から7%へ減少している。

設問(3)個人情報の取り扱いについて、市や学校は適切に対応していると思いますか。



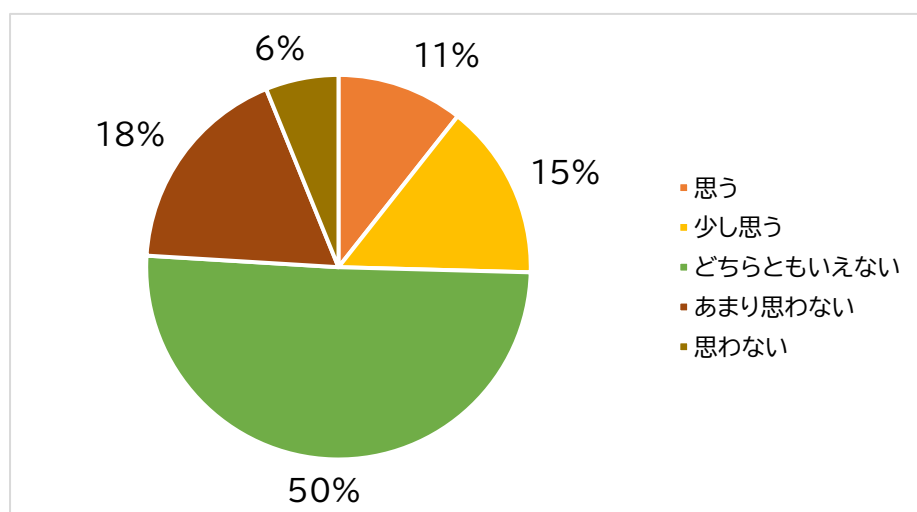
令和5年度は肯定群が55%となっていたが、令和6年度は肯定群の割合が62%となっている。また、否定群の割合は6%から3%へ減少している。

設問(4)子供たちをネットトラブル等から守るために、市や学校は適切に対応していると思いますか。



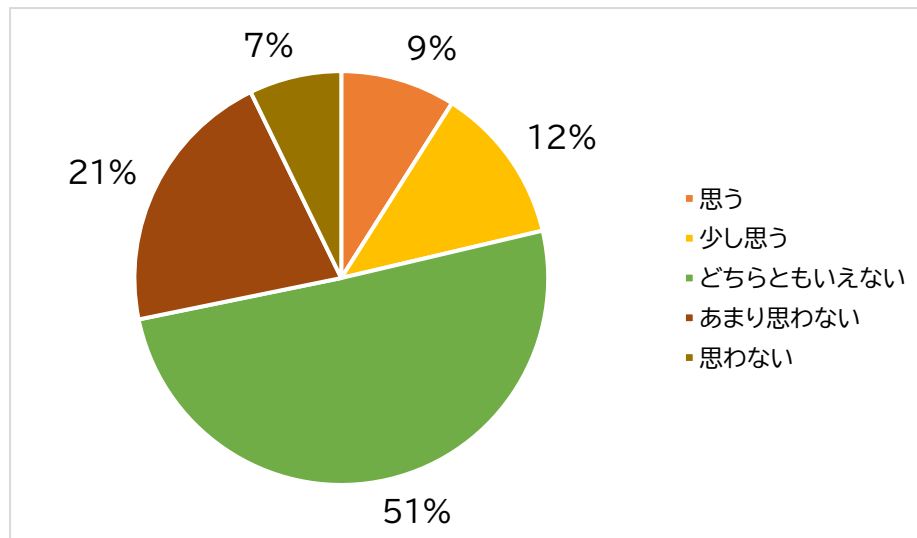
ネットトラブルの対応に関して肯定群の割合は、昨年度と本年度に違いはない。一方で、否定群は18%から12%へと減少しており、ネットトラブルに対する不安が減少していることを示唆した。

設問(5) 視力等への影響について、市や学校は適切に対応していると思いますか。



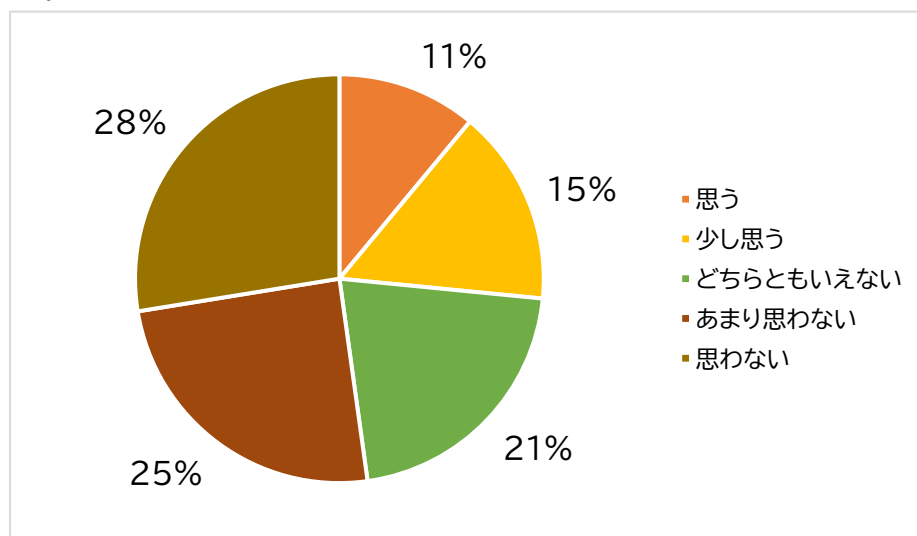
視力等への影響について肯定群を令和5年度と比較すると変動はなく、否定群は46%から24%と不安が減少しており、視力等への影響に対する不安が和らいだことが示唆された。

設問(6) 姿勢等への影響について、市や学校は適切に対応していると思いますか。



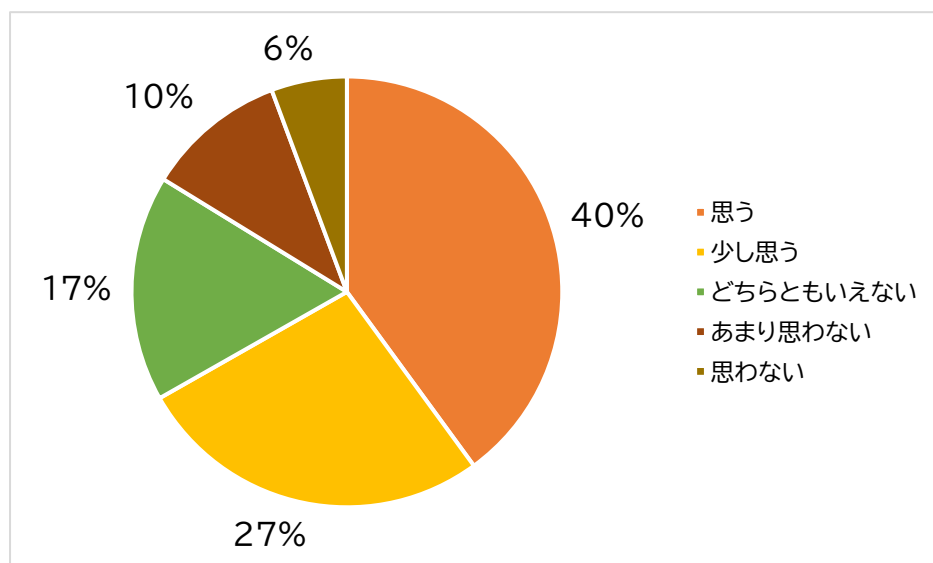
姿勢等への影響については、肯定群を令和5年度と比較すると変動はなく、否定群は39%から28%と減少しており、姿勢に対しての手立てが少しずつ進んだことが示唆された。

設問(7) 登下校時に荷物が重くなることについて、市や学校は適切に対応していると思いますか。



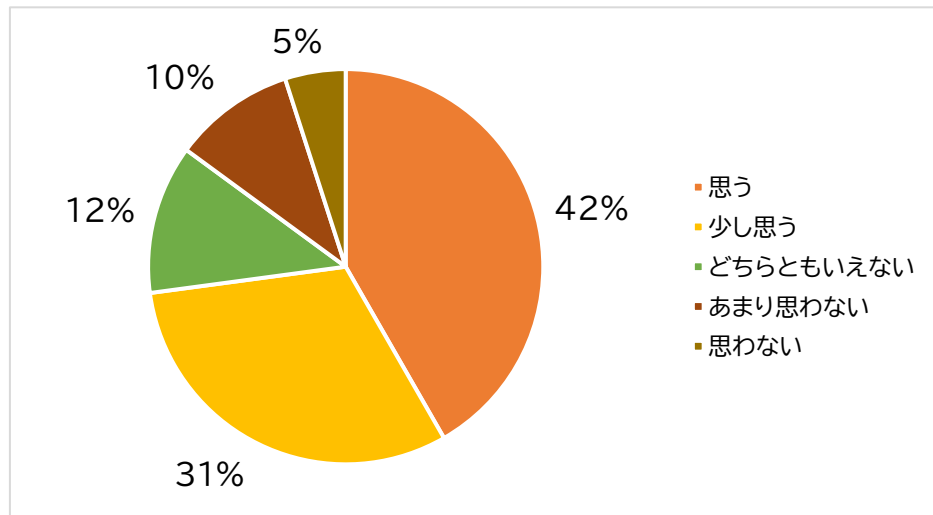
荷物の重さについて令和5年度と比較したとき、肯定群は30%から26%となり、否定群においては58%から53%へと変化が見られた。これらのことから、荷物の重さは保護者が心配する大きな要因でなり、早急な対応が求められることが示唆された。

設問(8)御家庭において、お子様は家庭でのルールを守って使用していると思いますか。



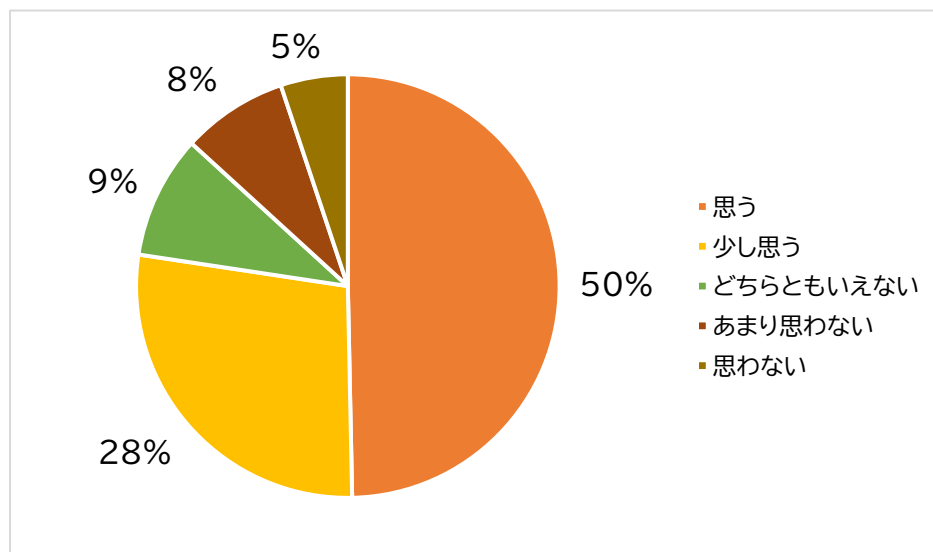
この質問において肯定群は令和5年度が76%で本年度が67%と減少している。また否定群は10%から16%に増加していることがうかがえ、家庭におけるルールが少しずつ守られなくなっていることが示唆される。

設問(9)お子様が、御家庭でどのようなことに使用しているかを把握できていると思いますか。



どのようなことにタブレット端末を使用しているかについては、令和5年度6年度ともに肯定群が大きく、75%と73%となっている。否定群に関しては10%から15%とやや減少傾向が見られた。

設問(10)お子様が、御家庭でどれほどの時間使用しているのか把握できていると思いますか。



タブレット端末を使用している時間については、肯定群が7%伸びて78%となった。また否定群も1%減少していることから、家庭における活用法にメリハリがつき、活用が充実してきたことが示唆された。